

平成20年11月18日

全日本中学校長会

会長 壺内 明

今後の就学指導の在り方に関するヒアリング事項について

障害のある子どもに対する適切な就学指導及び早期支援は、中学校の立場としても、最も重要なことと考えています。

1. 適切な就学につなげるための早期からの教育相談や支援をどのように充実させるか

障害のあるなしにかかわらず、子どもにとって大事なことは、将来の社会的自立・社会参加の実現である。障害のある子どもにはより一層将来へ向けて見通しを持った指導が重要と考える。そのためには、その子どもの小学校入学段階及び以前での客観的な状況把握が大切である。従って、医師、心理士等の専門家による検査・所見が大事であるが、幼稚園・保育園等の教諭・保育士による客観的な観察記録、保護者の成育に関する記録・意見等が大事であると考えます。

また幼稚園・保育園等の教諭・保育士が指導する際に専門家による助言が得られる協力体制が必要と考えます。保護者に対しても、子どもの社会的な自立に向けて客観的判断ができるような専門家による助言・支援体制を整え、将来への見通しを持てるようにすることが重要と考えます。同時に社会一般に対して、障害のある子どもの理解（将来を含めて）をより一層進めることが大切と考えます。

2. 一人一人の教育的ニーズに応じた就学先決定手続きをどのようにすべきか

例（１）、（２）について、基本的に賛成します。

その際に、上記１．と同様に幼稚園・保育園等の教諭・保育士による客観的な観察記録が専門家との協力体制の下に行われていること及び保護者が目先のことにとらわれることなく子どもの将来のために客観的に考えられるような支援体制があることが重要と考えます。

3. その他就学指導の在り方について

- ・継続的な就学相談・指導の実施については、市町村教育委員会ごとに同じ子どもについて継続して関わられるような専門家チームが設置できるシステム作りが必要と考えます。
- ・特別支援学校に就学した場合には、現在の副籍システムの充実を図って行くことが大切と考えます。

4. 上記のほか、特別支援教育全般に関する御意見について

中学校としては、専門的知識を持った特別支援教育支援員を各校配置もしくは必要とする学校には必ず配置できる体制を整えていただきたい。また人材育成のための研修体制作りが必要と考えます。